

# 木地屋研究

## 木地碗の製作工程を中心にして

Studies on *Kijiya*, Craft Specialists in Wooden Vessels--  
With Reference to Production Processes

須藤 護

①はじめに

②木地物の材料

③碗の製作工程

①原材料の利用と作業工程からみた木地屋の技術

### 【論文要旨】

木地屋を対象にした歴史資料としては古文書類、絵巻物等があるが、最近とくに注目されるのは、考古学の分野で精力的におこなわれている発掘作業で、中世から近世にかけての層から出土する木器や漆器類が大きな手がかりになる。しかしながら、一般に職人に関する資料は数が少なく、しかも中世期に時代区分してしまうと、文書も出土資料もさらに少なくなる。したがって中世社会における木地職人や塗師について、また木器や漆器の生産技術に関して、わからない部分が多いのが現状である。今回の報告は一つの試みとして、木地物の原材や原材の生育環境、木地物の製作工程、技術を中心にすえながら、木地屋の歴史について考察を試みようというものである。

今日まで多くの研究者が報告してきた木地屋研究のうち、木地物の原材や製作技術についての報告は少ないが、今回は福島県南会津郡、西会津郡、新潟県糸魚川市大所、愛知県奥三河地方、石川県能登地方、滋賀県（近江地方）の木地屋についてとりあげることにした。

これらの地方で生産活動を続けてきた木地屋の原材の使い方、木地物のつくり方、とくに木地碗のアラガタの段階での製作工程、および製作用具の比較をしてみると、二通りの方法に分類することができる。その一つはブナやトチノキなど原材が豊かな山中に居住し、原材が欠乏すると山から山へと渡り歩いていった集団と、比較的長い期間定着し、周辺の山に自生する多様な樹種を利用し、地域の人々の多様な需要に答えられるような木地物をつくってきた集団である。それぞれの集団は互いに異なった生産体系をつくりあげてきたのであるが、この生産体系の違いを手がかりにして、木地屋の移住史についてその手がかりを探っていく。